

基礎データ	人口	約3,394万人(2022年)
	名目GDP	4,070億米ドル(2022年)
	1人当たり名目GDP	11,993米ドル(2022年)
	実質GDP成長率	8.7%(2022年)

日本との関係	日系企業数	1,593社(2022年)
	在留邦人数	20,657人(2023年)
	日本食レストラン数	1,890店舗(2023年)

## 1

## 市場の特性と消費の動向

## 生産は消費に追いつかず、輸入が緩やかに増加

## A 市場の特性

マレーシアはコメの生産国ではありますが、生産が消費に追いついておらず、輸入が消費量の約4割を占めます。国産米の小売価格が統制されているため、農家の生産意欲が上がりにくいことが一因と考えられています。一方、マレーシア政府はコメの自給率を2025年には75%、2030年には80%まで高めるといふ計画を掲げています。

主な輸入先はベトナム、パキスタン、インド等であり、長粒種が主流となっています。そうした中でも、日本からの輸入は近年増加しており、国民の食の多様化や日本食ブームが背景にあるとみられます。

また、都市部では近代化が進んでおり、コンビニエンスストア等で包装米飯が販売されるようになっていますが、包装米飯全体の消費量はまだまだ大きくありません。

## B 消費の動向

マレーシア国民は、1日に約1.5合のコメを食べると言われていますが、民族により食されるコメの種類が異なります。マレー系はジャスミン米やタイ産米を好む一方、中華系はジャスミン米、インド系はバスマティ米を好みます。コメは主食であるため、米麺や粥などの加工品も作られています。

日本食への人気は高まっており、大衆店から高級店、専門店まで、様々な日本食が提供されています。かつてはエキゾチックなものと考えられていた寿司や刺身も、都市部やモールに寿司チェーンやバーが普及したことで、一般的に食べられるようになってきました。

表-1 コメの生産・消費・輸出入の状況

MY(7月～翌6月)	2021	2022	2023
生産量(千トン)	1,677	1,700	1,750
消費量(千トン)	2,900	2,900	2,850
輸出量(千トン)	120	125	100
輸入量(千トン)	1,240	1,300	1,200

(出典)USDA(精米ベース) 2024年1月30日時点

表-2 日本からのコメの輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	146	227	209
輸出単価(円/kg)	293	283	304

表-3 日本からの米菓の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	89	66	75
輸出単価(円/kg)	1,136	1,160	1,305

表-4 日本からの包装米飯等の輸出状況

暦年	2021	2022	2023
輸出量(トン)	4	5	19
輸出単価(円/kg)	716	537	486

(出典)財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く) 2024年1月30日時点

コメの主な輸入先国・地域

ベトナム、パキスタン、インド、タイ、カンボジア

## 2

## 流通チャネルと取引慣行

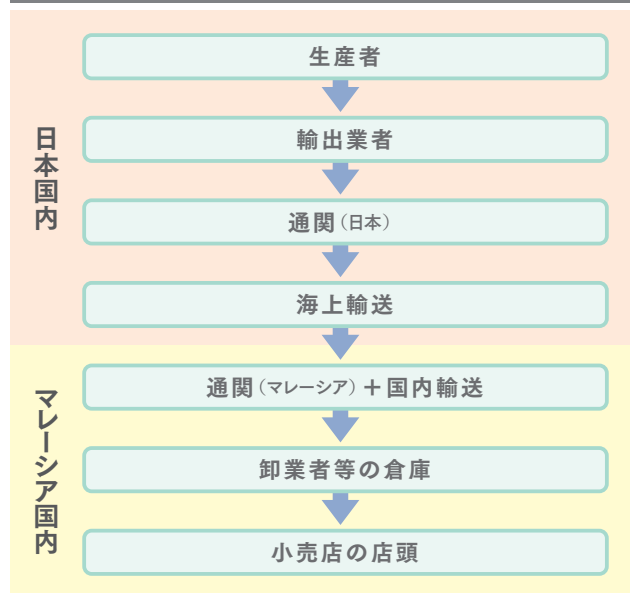
### コメの輸入許可を得ている事業者はBERNAS社のみ

#### A 日本産米の流通経路

国内流通は自由化されていますが、マレーシアで政府からコメの輸入許可を得ているのはパディベラス・ナショナル社（BERNAS社）のみであるため、同社がコメ流通の主導的な役割を担っています。BERNAS社はコメを輸入したい認定卸業者から申請を受け、輸入許可を出し、管理経費を取って輸入を代行します。その後、卸業者はマレーシア国内で輸入米を卸すことができます。なお、日本産米の大手卸業者はEdaran Komachi社であり、様々な日本産米を扱い、マレーシアの日系スーパーや食材店、EC等を通じてコメを卸しています。

インタビューによれば、各段階におけるそれぞれのマージン（利益幅）は輸入業者約5～20%、卸業者約10～25%、小売業者約15～30%となっています。

図-1 食品の流通経路



(出典)日本貿易振興機構(JETRO)  
「マレーシアにおける日本食市場の概況と新たな流れ」(2018年)

#### B 取引慣行

マレーシアでは、ハイパーマーケット、スーパーマーケット、デパートなどの近代的な小売施設が市場全体の45%を占めます。マレーシアの小売業界上位3社（売上高ベース）を外国資本のグループが占めています。日系の大手スーパーやディスカウントストア、コンビニエンスストア等も進出しており、その親会社や関連会社を通じて日本から直接食品を輸入して販売しています。

## 3

## 関税割当枠と関税

### コメの輸入関税率はCPTPP適用により2028年に撤廃

#### ■ 関税割当枠

関税割当枠はありません。

#### ■ 関税

マレーシアの関税には、一般的な輸入税である「関税令(PDK)税率」の他、「日本・ASEAN包括的経済連携協定(AJCEP)税率」、「日本・マレーシア経済連携協定(JMEPA)税率」、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)税率」、「地域的な包括的経済連携(RCEP)税率」のいずれかが適用されます。AJCEP、JMEPA、CPTPP、RCEPの適用を受けるためには、原産地基準を満たす必要があります。各協定の関税引下げスケジュールを含めた税率は以下のとおりです。

#### 【コメ(HSコード：1006)】

- PDK税率……………15%(飼料用破碎米)、40%(その他)
- CPTPP税率……………18.1%(2023年)、14.5%(2024年)、10.9%(2025年)、7.2%(2026年)、3.6%(2027年)、2028年1月以降：無税
- AJCEP税率……………コメは免除対象外
- JMEPA税率……………コメは免除対象外
- RCEP税率……………コメは免除対象外

#### 【包装米飯(HSコード：19049010)】

- PDK税率……………7%
- CPTPP税率……………無税
- AJCEP税率……………無税
- JMEPA税率……………無税
- RCEP税率……………無税

#### 【米菓(HSコード：19059080)】

- PDK税率……………無税
- CPTPP税率……………無税
- AJCEP税率……………無税
- JMEPA税率……………無税
- RCEP税率……………無税

## 4

### 検疫制度と食品規制

## 植物検疫証明書は必要

### A 検疫制度

コメの輸入はBERNAS社に独占的に許可を与えられています。輸入企業は、BERNAS社にコメの銘柄を指定して、輸入を代行してもらう形となりますので、日本からの輸入に際しては、輸入企業が同社と交渉のうえ、同意を得る必要があります。その際、検疫証明書が必要です。なお、包装米飯と米菓の場合、輸入ライセンスは必要ありません。

### B 食品規制

#### 製品表示の内容

ハラール認証取得は義務ではありませんが、輸入者から取得を希望されるケースもあります。表示が必要な項目は下記のとおりです。なお、輸入食品の場合はマレー語または英語で必要な表記がなされる必要があります。

- 食品名
- 原材料表示：水、食品添加物、および栄養補助剤を除く2種類以上の原材料からなる場合には、各成分について、重量に占める割合が多い順に明示し、場合によっては成分の割合も表示する。
- アレルギー表示：(アレルギー物質を含む際は、ラベル記載が必須となる。アレルギー表示が必要な品目は、グルテンを含む穀物(小麦、ライ麦、大麦、オーツ麦等)、ナッツ類(ピーナッツ、大豆等)、魚類、ラクトースを含む製品(牛乳、乳製品等)、卵類)。
- 正味量、容積、または個数
- 液状媒体内で包装された食品(お粥等)の場合には、最小限の食品固形量の記述。
- 製造業者もしくは包装業者、または製造権もしくは包装権の所有者、またはこれらのいずれかの代理業者の名称および事業所住所

g. マレーシア国内の輸入業者の名称および事業所住所、ならびに当該食品の原産国名。

- ❖…混合・配合して製造された食品(mixed food, blended food)の場合(雑穀米など)、場合に応じて内容物が混合または配合されたものであることをラベルに表記します。(精白米、玄米、パーボイルド米などの区分)
- ❖…食品が牛肉もしくは豚肉、またはその派生物(肉エキス等)。添加物でも原材料が動物由来の場合は当該動物の一般名も記載)、またはラードを含む際には記載が必要です。
- ❖…食品が添加アルコールを含む場合には、6ポイント以上の大文字かつ太字のサンセリフ書体によってその旨を表示します。
- ❖…食品が食用脂肪(動物性)または食用油(植物性)またはそれら両方を含む場合、それらを表示します。(場合に応じてそれらの脂肪または油が由来する動物または植物の一般名と共に表示)。
- ❖…食品が食品添加物を含む場合、包装上のラベルに「許可された(当該食品添加物名)を含有」と記述します。

## ■ 残留農薬基準

マレーシアでは残留農薬(最大許容残留値、使用禁止農薬)について、「1985年食品規則」(Regulation 41およびSIXTEENTH SCHEDULE)において品目ごとに定められています。

## ■ 東京電力福島第一原子力発電所事故に関連した輸入規制

2013年3月1日、東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う日本産食品の輸入規制は撤廃されました。

# 5 小売店の店頭価格

## 日本産のコメは他国産短粒種の約4～5倍

### A コメの販売価格

長粒種が多いマレーシアでは、短粒種は日本産の他、米国産、ベトナム産、台湾産等が販売されています。店舗で行った価格調査では日本産米の価格は他国産短粒種と比べて約4～5倍となっており、高価格帯となっています。

表-5 コメの販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (リンギット)	販売単位での 円換算*
Sumo Calrose	米国	1 kg	10.7	335
Takumi Beras Calrose	米国	500g	6.5	204
Floral Premium	台湾	1 kg	13.9	437
Love Earth Organic Pearl White Rice	中国	1 kg	22.9	720
Akita Komachi Short Grain Rice	ベトナム	1 kg	10.9	343
JA-rice Akitakomachi Rinse Free	日本	2 kg	96.0	3,014

表-6 包装米飯の販売価格(調査月:2023年8月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (リンギット)	販売単位での 円換算*
Table Mark Instant Rice	日本	180g×10	48.9	1,538
Jonetz Kakaku Instant Rice Large	日本	300g×3	18.9	594
Alpha Onishi Rice Red Beans	日本	100g	12.9	406
Sato Cooked Rice	日本	200g×3	23.6	742
Topvalu Koshihikari Steamed Rice Niigata	日本	300g×3	23.9	752

表-7 米菓の販売価格(調査月:2023年7月)

商品名	原産国 (産地)	販売 単位	価格 (リンギット)	販売単位での 円換算*
Bin Bin Rice Cracker	タイ	150 g	9.0	283
Wang Wang Senbei	中国	92 g	5.6	176
Parinko Rice Cracker	日本	60枚	24.9	783
Kameda Rice Cracker(Chili)	日本	110g	15.9	500
Hineriage Fried Rice Cracker	日本	105g	9.8	308

\*1マレーシアリンギット=31.4円換算

### B 包装米飯の販売価格

マレーシアでは包装米飯はまだ浸透していませんが、日系・韓国系の小売店等では日本産が多く販売されています。

### C 米菓の販売価格

日本産の他に中国、タイ、豪州などからも輸入されていますが、日本産は日系スーパーや食材店で主に販売されている一方、中国産やタイ産は現地の一般的な食料品店で売られています。また、日本産は他国産の商品に比べて高価格で販売されています。

## 6

## インターネット販売の実態

## 食品のECの利用率は高い

2023年の時点で、マレーシアには人口の約98%を占める3,359万人のインターネットユーザーがおり、そのうち27%は毎週オンラインで食料品を購入しています(16～64歳が対象)。

ShopeeやLazadaのようなECプラットフォームの他、日本食材に特化した輸入・卸売業者のショッピングサイトや日系スーパーのショッピングサイトもあり、日本産米・米加工品の販売も行われています。

主要ECサイト	a. Shopee	<a href="https://www.shopee.com.my">https://www.shopee.com.my</a>
	b. Lazada	<a href="https://www.lazada.com.my">https://www.lazada.com.my</a>
	c. mudah.my	<a href="https://www.mudah.my">https://www.mudah.my</a>
	d. pgmall	<a href="https://www.pgmall.my">https://www.pgmall.my</a>
	e. Doka (日本食材の専門輸入卸業者)	<a href="https://doka-shop.com.my">https://doka-shop.com.my</a>
	f. Halal Wagyu (日本食材の専門輸入卸業者)	<a href="https://halalwagyumalaysia.com">https://halalwagyumalaysia.com</a>
	g. Shojikiya (日系小売店のオンラインショップ)	<a href="https://shojikiya.com.my">https://shojikiya.com.my</a>
	h. Aeon (日系小売店のオンラインショップ)	<a href="https://myaeon2go.com/">https://myaeon2go.com/</a>

## 日本から越境ECで販売する場合の課題

コメは前述の「検疫制度」記載の手続きを踏まない限り輸入が制限される商品です。コメの輸入許可はBERNAS社に独占的に与えられているため、越境ECでも自由に輸出・販売することはできません。

## 7

## 輸出拡大に向けて

多様な食文化を有するマレーシアでは、民族により好まれるコメの種類が異なりますが、総じて言えることは日本食に対する人気です。日本食を通じて日本産米を紹介し、同じく短粒種である米国産や豪州産米に比べ日本産米が日本食にとって「本物」であること、食味や品質が高い点等を強調することが重要です。ただ、コメの輸入許可がBERNAS社に独占的に与えられているため、BERNAS社と交渉する現地パートナーの役割が他の市場以上に重要となります。